

令和3年度 年度自己評価 まとめ

幼保連携型認定こども園 おおぼし保育園

令和3年度は、世界的規模で感染拡大している新型コロナウイルスは、日本、そして青森市内でも猛威を振るい、コロナに始まりコロナに終わるという印象を受けました。

園では、感染拡大防止のため、三密を避ける、うつさない、うつらない等を掲げ、人が集まる運動会やお遊戯会等の行事の縮小に始まり、例年行われていた5歳児と放課後児童クラブの子ども達との夏の「お泊り保育」の中止、保護者参観の中止などを余儀なくされました。

また、うがいや手洗い、アルコール消毒等、徹底した衛生管理も行われました。

子ども達の普段の保育は、できるだけ変わらないようにしているものの、それでも三密を避ける、食事は「黙食」にするなど”楽しく遊ぶ””楽しく食べる”が限定されたように感じました。その中であって、クラスの先生たちはできる限りの子どもたちの”楽しく遊ぶ””楽しく食べる”が行われるよう、プチ遠足やリンゴもぎを行う等工夫した保育が行われました。

新型コロナウイルス感染の終息がまだ見えない中、これまでの保育の在り方を見直し、コロナ禍にあっても子ども達がこれまで以上に”楽しく遊ぶ””楽しく食べる”が行われるよう今後は、更に、日常活動の教育・保育の工夫、行事の工夫等見直しをしていきたいと考えています。

令和3年度の自己評価については、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の各項目に基づき行いました。以下はその結果の内容です。保育教諭、看護師、栄養士、調理員、高齢者活躍推進員の計21名で行いました。下表の数値は%で示しています。(単位：%)

区 分	十分理解し実践できた	理解し実践できた	普通にできた	もう少し努力が必要
I 園の基本姿勢 教育・保育理念や目標、こども園の社会的使命、職員としての心構え	51.1	40.0	8.9	0.0
II 教育・保育要領 1 総則 教育及び保育の基本並びに内容、指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価、特別な配慮を必要とする園児への指導	35.8	43.4	18.0	2.8
2 ねらい及び内容並びに配慮事項 乳児期の園児・満1歳以上3歳未満の園児・3歳以上の園児それぞれの保育に関するねらいと内容、教育・保育の実施に関する配慮事項	40.3	45.0	11.1	3.6
3 健康及び安全 健康状態や発育及び発達の常態の把握、環境及び衛生管理、施設・設備等の安全確保、地域の関係機関との連携	44.2	47.2	7.7	0.9
4 子育ての支援 子育て支援全般に関わる事項、保護者に対する子育て支援、地域における子育て支援	34.1	45.9	20.0	0.0

園まとめ

認定こども園教育・保育要領の理解度及びその実践結果は、上表のとおりであった。

上表の結果にかかわらず、令和4年度からは、当該要領の位置づけ、内容について、園内研修を実施していくこととする。

また、次に掲げる個人評価等から、次のことを令和4年度の重点事項として、職員研修を行い実践していくこととする。

①物の間違いを防ぐ

人は間違いをするという前提に立ち、個人の資質のみに頼るのではなく、間違いが起こらないような組織体制とし、二重チェック体制を徹底する。

②先生同士のコミュニケーション

保育感は一入ひとり異なるとは思いますが、子どもたちのあるべき姿やこうなってほしいという思いなど、目指すところは同じであるという観点に立ち教育・保育業務を進める。

まずは、教育・保育業務の研修の前に、道徳、社会人として、人としての在り方について、皆で勉強会を開く。他者の話をよく聞く、否定しない等、保育以外の社会人として人として当たり前の相手を思いやるということをもう一度見直しする。

③コロナ禍、収束する兆しも見えず、今後の教育・保育の在り方（行事、普段の保育、食事等）全ての業務を見直して、皆で工夫を施しながら考え、より良い教育・保育を実践していく。